

## 看護の現場より

看護学生のみなさんに、私たちが日々看護を実践している現場での奮闘ぶりや、看護に対する熱い思いをシリーズで紹介します。

## つなぐ、つながる、繋げて、繋ぐ『で愛』からはじまる退院支援について

尼崎医療生協病院 地域連携相談センター  
佐々木 暁子さん



はじめまして。尼崎医療生協病院地域連携相談センターで業務している看護師の佐々木です。

ここでは、地域連携の中で看護師がどんな仕事をしているのか紹介します。

まず地域連携相談センターの中で大切にしていることは、『つなぐ、つながる、繋げて、繋ぐ』です。何のこと?となるかと思いますがここでは、患者さんや、ご家族、地域の病院や診療所、在宅を支えている訪問看護師さんやケアマネジャーさん、地域包括支援センターの方や市役所の担当者さんと様々な方からの相談や連絡が入るところです。そこから一つひとつの情報を大切に拾いあげながら、そこで生活されている患者さんの療養生活を支援するために必要なピースを繋ぎ合わせて、支援する方々を繋いでいくことです。それは、つながった人々の“困った”にしっかり耳を傾けていくことの連続になります。

そこには、患者さんのみならず患者さんを支えている方々にとって私たちができる支援のあり方です。

## ■ 『で愛(出逢い)』の看護

出逢った患者さん、ご家族が何を大切にされてきたのか、どんな歴史(生活史)の中で頑張ってきたのか、対話を通して感じて想いに寄り添っていくことから始まります。家でみてあげたい、最



地域連携相談センターには、MSWが4名、退院支援看護師が3名、入院相談などのすべての窓口看護師が2名、事務の方が2名でそれぞれの役割と使命を持って勤務しています。



期は家で過ごしたい。ご家族の介護の限界など様々な状況はありますが、一番何が患者さんにとって良いことなのだろう、ご家族は何が一番困るのだろうと考えることから『で愛』の看護が始まります。『で愛』は、退院支援担当者だけではなく患者さん、ご家族をサポートする在宅チームのメンバーさんたちによりスタートします。はじめに療養生活の目標を共有して、それぞれが役割発揮できるようにカンファレンスをします。その中では当然、患者さん、ご家族の役割も確認します。みんなが出逢ってつながっていく、繋げていくことが退院支援担当者の役割になります。繋がった後は、患者さんが元気に過ごせているかなど、繋いだ評価も必要になってきます。

## ■ 忘れられない患者さん

私が出逢った患者さんの中で、尼崎医療生協病院と繋がった忘れられない患者さんがいます。

その方はがんのターミナル期の患者さんでした。身寄りもなく、生活保護を受けておられました。入院の時に出迎えに行くと、「僕を受け入れてくれてありがとう」と言われました。どんな思いでこれまで頑張ってきたんだろう、一人でここ(緩和ケア病棟)に来られるまでに様々なことを受

け止めてこられたんだろうと思うと、泣けてしまいました。その後まもなくその方は安心して旅立たれました。

他にも出逢ったご家族で毎年検診に来てくださる方がいらっしゃいます。その方はお父様を亡くされお一人になられましたが、元気な顔をのぞかせに来てくれます。「いつでもどんな時でも顔を見せてくださいね」とお伝えしています。

また、退院される時は患者さんだけでなくご家族にも「困ったことがあれば声をかけてくださいね」と必ずお願いしています。退院したら終わりではなくまた始まりです。

## ■ 地域の寄りどころに

他には入院や外来受診の窓口対応もしています。何とか、地域包括支援センターに繋がった患者さんの中には、患者になれない患者さん(受診ができない、受診を拒否している)、大病を患っているのにセルフネグレクトになっている方、経済的困窮など様々な人がいます。

これからもそのような繋がりを持たない、あるいは持つ方法を知らない方々が、相談に訪れてくる地域連携相談センターであり続けたいと思います。